

成果の説明書

(氏名) 丸山奈穂	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <p>➤ 調査データの収集</p> <p>外国人街の観光地化に関する基礎的研究（平成12年度基盤研究（C））のためのデータを収集した。この研究は、群馬県大泉町および大阪市生野区を例として、外国人街の観光地化が、日本人住民と外国人住民の相互理解や外国人住民のエンパワーメントといった地域問題の解決につながるかを探ることにある。昨年度までに大泉町でのデータ収集は終了したため、今年度は大阪市生野区でのデータ収集を実施し、日本人住民と韓国人住民合わせて130人から回収ができた。</p> <p>➤ 論文の執筆、投稿</p> <p>中国系アメリカ人が中国を観光者として訪れることに関する論文（博士論文に基づく）が受理された（International Journal of Tourism Research）。また、外国人街の観光地化に関する論文5件を執筆し、4件が受理された（観光研究1件、Journal of Sustainable Tourism 2件、Journal of Travel and Tourism Marketing 1件）。1件は審査を待っている段階である。</p> <p>➤ 学会発表</p> <p>Advances in Hospitality and Tourism Marketing and Management Conference（立命館アジアパシフィック大学）および TTRA Asia Pacific Chapter Conference（明治大学）にて研究発表を行った。</p> <p>➤ 競争的研究費</p> <p>科研費2件が採択された（世界遺産観光地と住民のエンパワーメントに関する研究 基盤研究（C）研究代表者）（女性と観光に関する総合的研究 挑戦的萌芽研究 研究分担者）。</p> <p>② 教育</p> <p>➤ グループ研究の実施</p> <p>演習 I では、昨年同様グループ研究に取り組んだ。今年度はゼミを3つのグループにわけ、研究テーマの設定から研究計画書の執筆、調査関係機関への協力依頼、調査の実施、報告書の完成までを学生が主体的に進めている。調査は、こんにやくパーク（群馬）、東武ワールドスクエア（栃木）、守屋酒造（千葉県）の3か所で行われている。</p> <p>➤ 卒論のためのデータ収集</p> <p>演習 II では、全員が卒論のためのデータを学外で収集した。3年次に行ったグループ研究での経験を応用し、個人ですべての作業を行うことができた。</p> <p>➤ サマリーシートの作成</p> <p>演習 I および II では、読んだ文献の要点をまとめ、さらに批評を記入したサマリーシートを毎回作成提出させることにより、文献を批判的に読む姿勢、またディスカッションに準備をして臨む姿勢の向上がみられた。</p> <p>➤ ディスカッション、プレゼンテーション、プロジェクトの実施</p> <p>各講義では毎回グループディスカッションを行い、学生が考え発言する能力を高めることができた。自ら挙手し発言する学生も増えてきた。また、グループでのプレゼ</p>	

ンテーションを行い、与えられた課題のなかで、リサーチをする能力を付けた。また、観光プロモーション論では各グループが群馬県のプロモーションのためにカルタ、パンフレットなどを作成した。

③ その他

2015年11月に日本観光研究学会全国大会が高崎経済大学で実施されたことに伴い、学会開催業務に携わった。また、大学広報誌「Approach」の改訂作業に携わった。

2 その他の事項

➤ 大阪での調査を行う際には、可能な限り近隣の大学で観光学を学ぶ学生をアルバイトとして雇用し、地域の方からの信頼を得ることに努めた。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、今年度収集した大阪でのデータに基づいて論文を執筆したい。また、富岡および日光でのアンケート調査を実施したい。教育面では、演習Ⅱにおいてはグループ研究の調査結果を報告書にまとめ、調査に協力いただいた関係機関に送付する。また、就職活動の時期が今年度と変わることを踏まえ、卒論との両立できるよう学生を励ましていきたい。講義においては、クラス内での積極的な発言を促すよう努力したい。